

MRI-超音波弾性融合画像ガイド下前立腺生検システム UroNav

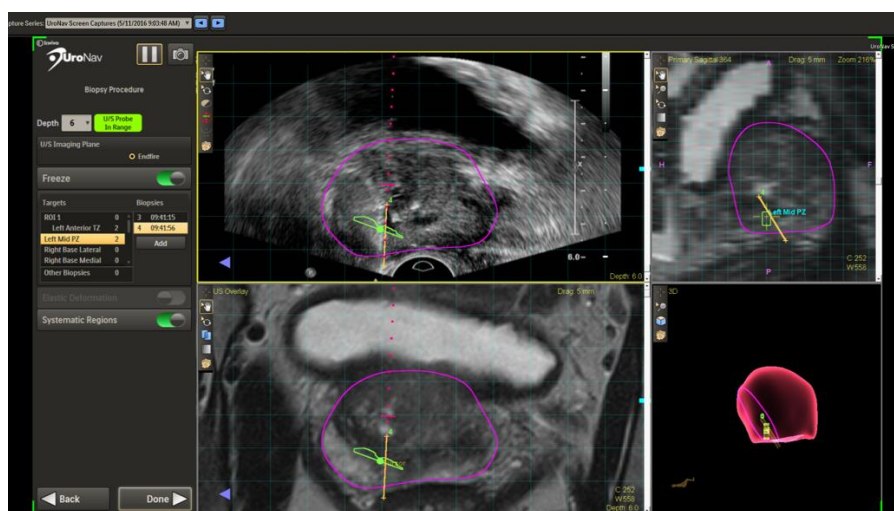
前立腺癌の確実な診断

前立腺生検では一般的に肛門から挿入した超音波検査での観察下に前立腺に針を穿刺し組織を採取しています。前立腺癌の画像診断には、MRI が最も診断能力に優れていると言われてはいますが、MRI 画像で前立腺癌が疑われていても病変が小さい場合は前立腺生検時の超音波検査で場所が特定できず、癌が疑われる部位を正確に穿刺することが難しいことが多いです。

当院では 2022 年 5 月から MRI-超音波弾性融合画像ガイド下前立腺生検システム UroNav (PHILIPS 社) を導入しました。これにより MRI 画像と前立腺生検時の超音波画像を重ね合わせて表示させ、超音波画像上に前立腺癌が疑われる病変を確認し正確に穿刺することが可能となりました。この技術によって従来の前立腺生検と比較して精密で信頼度の高い生検ができ、前立腺癌の検出精度が向上することが報告されています。また、前立腺癌の早期発見を行うことができ、前立腺生検をしても前立腺癌の診断ができず再生検を必要とすることも減らせると考えています。

MRI-超音波弾性融合画像ガイド下前立腺生検はこれまで先進医療であったため高額な費用がかかる点がデメリットでしたが、2022 年の診療報酬改定で保険収載され健康保険が適用されることになり、費用の負担は少なくなりました。

病変が小さかったり、従来の前立腺生検では前立腺癌の診断ができず再生検が必要と判断された患者様にとってメリットの多い検査方法です。詳しくは担当主治医の先生とご相談ください。



前立腺は紫色の線でマーキングしています。前立腺癌が疑われる病変を超音波画像上に表示させ(緑色)、穿刺針(黄色)で病変に穿刺できていることを確認しています。